

一足を踏み出す

真珠の浜揚げ

12月中旬、真珠の浜揚げをした。浜揚げとは真珠を貝から取り出すことである。1年半以上かけて育てたアコヤ貝、この浜揚げで真珠の良し悪しが決まる。貝からボロリと零れ落ちる美しい真珠に歓声が上がる。キズばかりで売り物にならない真珠が出るとため息が漏れる。一喜一憂しながらの作業が続く。

浜揚げは寒い時期に行う。海水温が下がると、表面に薄くきれいな真珠層が形成されるからだ。私の幼少期は、寒さに震えながら手伝った記憶があるが、最近は気持ちが悪いくらい暖かい。12月だというのに20度に近い気温で暖房も使わず、作業中に汗ばんてくる。1年を通して海水温も高く、その影響なのか、稚貝の生育不良は今も解決していない。

稚貝を育てる



日々の真珠

明かり

普段は母貝業者から2、3年育てたアコヤ貝を購入し、そこから核を入れて養殖するのだが、貝が不足しているので、試験的に稚貝から育てることにした。1ミリ以下の貝をチョウチンとよばれる細かいメッシュに入つて稚貝を全部食べられたりと失敗の連続。ただ、その経験が2年目3年目と活かされ、だんだんと品質の良い貝もできるようになつた。

今回の浜揚げには、自分たちで育てた貝からできた真珠も含まれていって、これまで以上に感慨もひとしおだつた。まだまだ改善点は多いが、やることはやつた。

挑戦と不安

青のりの事業もそうだが、新しいことに挑戦すると何かと忙しく、不安になる。自分の時間も2年目没頭するあまり家族には愛想をつかされ、好きな本を読む時間もないので、周りの人に幾度となく助けられ、迷惑をかけているのではないかと勘織ることもある。日々、問題が起ころう心配事は尽きない。

シェー状の袋に入れて筏に吊るす。数カ月間隔で袋を変え、さらに小分けして入り数を調整、メッシュの目も徐々に粗くして、貝の掃除もする。

この工程を何回も繰り返し、2年くらいでようやく10cmくらいのアコヤ貝になる。真珠養殖との同時進行で仕事も重なり、思うように作業が進まない。袋の目が細かいので汚れるとすぐに酸欠を起こしたり、蟹が入つて稚貝を全部食べられたりと失敗の連続。ただ、その経験が2年目3年目と活かされ、だんだんと品質の良い貝もできるようになつた。

今回の浜揚げには、自分たちで育てた貝からできた真珠も含まれていって、これまで以上に感慨もひとしおだつた。まだまだ改善点は多いが、やることはやつた。

そんな時は猪木さんのボエムを朗唱する。

「この道を行けばどうなるものか。危ぶむなけれ、危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わづ行けよ、行けば分かるさ。」

1、2、3、ダーと勢いよく行きたいところだが、できないのが私。地道にこつこつ、石橋を叩く。お世話になつた人には、あとで恩返しをしよう。元気があれば何でもできる。今日も一足を踏み出す。(佐藤和文)



1 水温が低下した冬、光沢が増した真珠を貝から取り出します。一年間の結果が表れる緊張の瞬間です。

2 手に乗せててもよく見ないと貝と分からぬほど小さい稚貝。この稚貝が大人の貝(母貝)になるのかと思うと自然の神秘を感じます。

3 浜揚げの様子。沖から貝を引き揚げて数日以内に真珠を取り出すので、なるべく急いで作業します。貝を専用のナイフで割る係りの人は1日5,000個くらい割ることも。

手をかけること

私にとって真珠は「冠婚葬祭にかかるせないもの」であり、いざというときの出番を待つ遠い存在のものでした。朝早く出かける時も、夜遅く帰つて来た時も佐藤真珠の工場にはいつも明かりがついています。長女を妊娠中は目が覚めてしまい、早朝に散歩していましたが「昨日は遅くまで飲んでいたはずなのに」と思う朝も仕事が始まつてきました。その光景は今も変わりません。

真珠のごとく

真珠は、アコヤ貝を何年もかけて育て、真珠の元となる核を入れ海と陸を行き来させながら人の手をかけてさらに育てていきます。貝に付くフジツボなど、成長を阻害するものを取り除くために1つひとつを掃除し再び海へ。この繰り返しの先でも真円の真珠ができるのは数%。わずかな可能性を信じ続け、それでもどんなに尽くしても、思い通りにならないのは子育てと似ています。

(藤森)



1 右: 佐藤宏二(父) 左: 和文 佐藤真珠は明浜の海で真珠を育てて50年。養殖から製品加工までを一貫して行っています。

2 真円のものもあれば、涙の形をしたものもあり、色も様々。1級品になるのは取り出した真珠の中の5%以下。

3 真珠の「核入れ」作業の様子。アコヤ貝の口を開け、メスで切り、その中に核をいれています。真珠のごとく、時には誰かの手を借りながら、様々な出来事を受け入れつつ自分の輝きを育ててほしいものです。

真珠のお手入れ

汗や皮脂は変色の原因になりますが、身につけた後に柔らかい布で水拭き→乾いた柔らかい布で二度拭きしていただくことで防ぐことができます。また紫外線によって変色する場合がありますのでお手入れ後はケースに入れて保管することをお勧めします。

宝石の多くは、地殻変動などの偶然の重なりによって生まれ、研磨し輝くのに対し、真珠は、貝の中に入ってきた核に何層も膜を作り重ね、内包できるよう貝自身が作り出しました。真珠は「異物を排除するのでなく受け入れることによって輝きを生む」と聞いた時に成熟した社会や人の成長のようだと感じました。異物の侵入という危機を自らの力で乗り越えていくことから船乗りがお守りとして持つていたらしいという話にも合点がいきます。

私が日常的に使っているのは小ぶりのイヤリング。冠婚葬祭用には少し小さ目なのですが、特別な場の為ではなく、いつもの服に合わせることができます。愛情を一身に受けた真珠を身につけるといつもより背筋が伸び、勝手に運気があがるようになります。

さて私事で恐縮ですが今春長女が親元を離れることとなりました。ピアスをするか迷つて彼女には、一粒のネックレスを贈ろうと思つています。真珠のごとく、時には誰かの手を借りながら、様々な出来事を受け入れつつ自分の輝きを育ててほしいものです。

3 真珠の「核入れ」作業の様子。アコヤ貝の口を開け、メスで切り、その中に核をいれています。真珠のごとく、時には誰かの手を借りながら、様々な出来事を受け入れつつ自分の輝きを育ててほしいものです。